

# 碩 心

可 行 認 會 風 岳 院 學 吟 詩 日 本  
神 奈 川 碩 心 會 發 行 會

5年12月現在 逗葉大合 子山地 山地区 船地区 計	會員数 161名 223名 43名 427名	5年12月 根編 中	(257号) 行 者 集 者 岳 者 村 岳 愛
---	------------------------------------	------------------	--------------------------------------

## 一月の行事予定

◎碩心会初吟会

日 時・平成6年1月9日(日)10時より

場 所・京急ビーチセンター

◎県本部初理事会(初吟会)

日 時・平成6年1月30日(日)10時より

場 所・ワークピア横浜

JR根岸線石川町駅下車徒歩3分

根岸先生「宗帥」冠省

## 贈叙の祝賀会開かれる

会長根岸岳萃先生に、7月1日付で総本部より「宗帥」の冠省が贈られました。その名誉を讃えるため、11月13日(土)、祝賀会を行いました。

当日は大船地区吟道大会があり、式典の場に於て、会員一同からの記念品を加藤岳相先生からお渡しいたしました。そして温習会終了後大船の「千馬」に於て、指導者37名出席のもと祝賀会を行いました。碩心会々長として、また総本部理事として、益々御壮健で活躍のほどお願いいたします。

## お礼の言葉

根 岸 岳 萃

この度、私が宗帥をいただいたことに際し、碩心会の皆さんから、暖かいお祝いをいただき、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

冠省は総伝在位五年以上の方の中から宗佑、宗佑から五年以上の方の中から宗匠、宗匠から五年以上の方の中から宗帥となり、即ち総伝から十五年以上の方の中から選ばれるという条件になります。私は碩心会の皆さんの御協力、御支援に支えられて達成できたことで本当に感謝に堪えません。

故松井岳洋先生の宗宰は、正・副理事長、又はこれらと同等以上の方で、私達では到底行きつけるものではありません。

県本部の或る方が宗佑をいただき、非常に感激しておられました。翌年には同期の人が全員いただき、有難味がうすれてしまったという話を聞きましたが、これからは益々むずかしくなると思います。皆さんもより一層吟道に精進されまして、これから続々と宗匠、宗帥の冠省をいただかれます様祈念します。この度はまことに有難うございました。

頌心会大船地区

### 吟道温習会盛會裡に終る

松和 南湖 収山

大船地区吟道温習会が11月13日(土)中小企業労働研修センター四階において150名の会員が参加して行なわれた。

三年越しに行なわれた温習会は午前9時30分定刻、光岡洗岳先生の司会で開始。修礼、岩崎恵岳先生の開会の挨拶に始まり、鈴木萃岳先生の先導で「頌心会の詩」が声高らかに合吟された。

会員吟詠、協賛吟詠があり、昼食後、第三部に入り、根岸岳萃会長にこのほど宗帥の冠稱が授与されたことに伴い、当頌心会々員からのお祝いが、加藤岳相副会長から会長に贈られました。

壇上ではつづいて許証授与に入り、各段位の代表者に会長から許証が手渡された。会長からは「会員の皆さんの協力を感謝し、吟道によって精神文化の向上と健康をはかるよう併せて会員の増強もはかっていたきたい」と熱のこもった挨拶。又地区長の木村松岳先生からは主管としての挨拶がそれぞれ述べら

れた。

相変らず会場を盛りあげた立体吟、協賛吟詠、大船地区指導者吟詠とつづき、第七部の役員吟詠と、素晴らしい吟が披露された。

森田暁岳先生の閉会のことは、鈴木先生の万歳三唱の唱和で温習会は盛會裡のうち終了しました。

遠い処に出場して盛り上げて下さった各区の会員の皆様に厚くお礼申し上げます。又運営役員にあたった会員諸氏には早朝より、各持場でご活躍され、ほんとうに御苦労様でした。

### 詩吟と私

大船B 森 貞風

詩吟と云うと、昔は男性のものと思っておりました。「若竹」という詩の会を作り、その時森田先生とお会いする事ができました。私が詩吟に入れていただきましたのは、今から十四、五年も前の頃だったと思います。年を重ねて風号を戴きましたが、上達が遅く淋しい思いをしております。今回大船地区温習会にて、森田先生と連吟をしましたが、顔の赤らむ思いでした。呼吸法が思うように出

来ないのかと思います。

諸先生の吟をお聞きしますと、年輪の味があり、感心するばかりです。今後も一層勉強して、一つでも二つでも、詩吟を自分の十八番にしたいと思っております。先生方の御健康と、頌心会の繁栄をお祈りいたします。

俳句 岩崎 恵岳

潮風の目つぶしに合ふ海桐の実

海亀の死を確かむる指の冷え

野分潮取り残されて亀逝けり

供ふ物なき亀の死や翳雲

亀の死を見詰めて吹かる木の葉髪

右は十月三十日、私達俳句グループ吟行の折、葉山森戸海岸で偶々海亀の死に立会い、

四肢は傷つき、涙を留めた姿に言葉もなく、

唯々亀の死を悼み、心を残しながら別れを告げたのでした。

(移 籍)

676 橋本トヨ子・葉月支部より吟詠支部へ

年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず。早いもので今年も又終ろうとしていきます。体に気をつけてどうぞよいお年を。